

学びの広場 2016

「地域集会施設」の事業紹介

今回は「自治会集会施設」の事業を紹介します。

虫沢田自治会長の山岸榮市さんに事業の様子を伺いました。

【問い合わせ】教育課 生涯学習係 ☎(83)7021

のどかな環境の中 地域が一丸となって活動

虫沢田地域は、江戸時代に建立された龍王寺を中心に集落が広がっています。

虫沢の地名は、マムシが生息するほど水のきれいな住みやすい所と言われ、また、田代は田んぼが多かったことから、それぞれ地名がつけられたようです。現在、世帯数は110、人口は約350人で、集会施設を拠点に、地域が一丸となる活動を展開しています。

奇神社例祭と 虫沢田代祭り囃子保存会

毎年3月の第一土曜日は、奇神社の例祭です。そのため1月に入ると早速「虫沢田代祭り実行委員会・保存会合同役員会」が開催されます。

祭囃子の練習のサポートや山車の花飾りなどの準備に入ります。この祭を盛り上げるために、寄



奇神社の例祭
神輿と虫沢田代の花飾り

防犯教室とふれあい会
昨年度、7月22日に防犯教室を開催しました。県くらし安全交通課を招き、「オレオレ詐欺」について寸劇などで分かりやすく解説していただきました。今年度も、9月8日に「オレオレ詐欺」と「空き巣」について講演をしていただく予定です。



虫沢田代祭り囃子保存会の練習

早起きラジオ体操講座
午前6時20分に龍王寺境内に集まり、NHKの放送に合わせてラジオ体操第一、第二を行います。昨年は、14日間にわたり実施し、雨天の場合は、龍王寺の本堂で行いました。延べ467名が参加し、一日平均33名と大盛況でした。小学生や幼稚園児などから老若男女と多数参加していただきました。今年も7月21日から8月3日まで行っています。期間中、2回程度の余興もあります。大変楽しいひと時です。



ふれあい会での体操

虫沢ふれあい会は、今から4年ほど前に始まりました。引きこもりがちで一人暮らしの高齢者自身による、地域の高齢者の見守りや安否確認などを行っていただいています。会合では、先生の指導のもとでの軽い運動や、仲間との会話、お茶飲み会などを行っています。今年度は、「ふれあい会」を主体として開催したいと思い、5月10日に「ふれあい会の体操」に参加しました。当初は、簡単な体操だと思っていましたが、翌日はあちこち筋肉痛で体に効いているんだなあと思えました。体操中は、そのこつこつと腹が痛くなるほど笑ったことがとても印象的で、大変楽しいひと時でした。毎月一回第一木曜日に実施しています。地域以外の方でもお気軽にご参加ください。



古文書講座

「古文書」解説講演会
この地域には、江戸時代の古文書が大事に保管されており、一昨



高松山の視察

高松山の眺望をよくする虫沢の会
今、高松山山頂は、山北町側の樹木が伐採されて富士山や相模湾、足柄平野が一望できるようになっています。松田町側は、植樹された樹木が視界をさえぎり、虫沢地区をはじめ、寄地域・丹沢山塊はほとんど見ることができません。そこで、虫沢田地域では、高松山の眺望を良くするため、昨年11月、「高松山の眺望をよくする虫沢の会」を発足させ、神奈川県や山北町・松田町外三ヶ町組合議会・地元松田町に指導・協力をいただいています。地域としては、この実現に向けて一丸となって努力をして行きたいと考えています。

年この古文書の内容を学習する講演会を開催したところ、大好評だったため、昨年も「統・虫沢の江戸時代古文書解説講演会」を10月25日に開催しました。講師は、寄の弥勒寺地域に住み、県立高校で歴史を教えていられる桐生海正(きりゆう かいせい)先生にお願いしました。大地図を用いての身近な話に40名の参加者は、時間のたつのも忘れ、真剣に聞き入っていました。終了後の懇親会も大いに盛り上がりしました。

松田の文化財探訪

《矢倉沢往還9》
文化財保護委員
草門 隆

町内における「青山街道」について
先月までは、「当町内における矢倉沢往還の3コース」を紹介させて頂きました。今回は、今まで2回実施したウォーキングの際や、読者等から「青山街道の命名について」の質問が多く、関心が高いと感じましたので「青山の名前」について触れたいと思います。「当町内の青山街道」の初見文書(矢倉沢往還のみらしるべ)

第1回町民大学のお知らせ

日時 8月6日(土) 午前10時
会場 松田町民文化センター
演題 「今なぜ治未病なのか」
講師 足柄上病院元院長 堀口一弘 氏
ご参加お待ちしております
申し込み ☎(83)7021

は、出発地点の江戸・赤坂御門近くに徳川の家臣・青山忠成という殿様の屋敷があり、その道が続いているから厚木通りまでを、青山街道とも呼ばれていたようです。ところが当地に至り、この道筋の一部をなぜ唐突に青山街道と呼ばれるのか、その理由等は解りませんでした。しかし、『南足柄市史』の資料、近世二の中に「青山街道、神山村まで」の記述を発見しました。これは、人馬継立場間の駄馬・駄賃表で、藩主・大久保加賀守に御認を頂くべく、慶応4(一八六七)年に関本村より差し出された公式文書と言えらるものであり「青山街道」という道の名は、当町内だけでなく江戸時代は、小田原藩や近郊の村々からも認知され、呼称されていたことが解りました。なお、本年四月この道筋の店屋場・水神碑前の通りに、小屋根付の往時を偲ばせるような趣のある私設の「矢倉沢往還の道しるべ」(写真)を現認しました。今後、この道筋案内・紹介として、大きな役割を担って頂けることと思っております。この紙面を以て謝意を示したいと思います。次は、なぜ「青山街道」と言い伝わっているのかを、史実に基づき推論を記してみたいと思います。